

# ミレニアム開発目標(MDGs)の達成/人間の安全保障の推進(アフリカ支援、保健/教育) (無償資金協力・技術協力・世界基金)① 【要望額251億円、要求額742億円】

## 【事業の目的・効果】

● 2015年までに開発途上国の貧困を半減する等8つの目標を掲げるミレニアム開発目標(MDGs)の達成に向けた支援を強化するため、アフリカ支援および保健/教育分野の支援として平成23年度概算要求において要望額251億円を計上。

● アフリカでは、4人に1人が小学校に通っておらず、7人に1人が5歳の誕生日を迎えられずに死んでしまうが、日本の保健/教育分野の事業展開は、不就学児童や乳幼児の死亡を減らすことに貢献。さらに、国境を越えて伝播するエイズ、結核、マラリアの三大感染症は、アフリカでの影響が甚大であるのみならず、我が国国民の健康も脅かすおそれのある課題であり、日本は世界基金への拠出を通じて三大感染症対策に貢献。

● ①援助の実施には、日本人専門家600人、ボランティア50人程度が関与することとなるほか、さらには、②アフリカの資源、約10億人の市場は、我が国企業にとって大きなビジネス・チャンスであり、アフリカの成長と安定は、日本経済の成長、資源獲得に裨益。

## 要求額(742億円)

- 無償資金協力・技術協力 計692億円
  - アフリカ支援(無償324億円、技協220億円) 計544億円
    - 道路等の広域インフラ整備、電力インフラの整備
    - 草の根無償
    - 食糧援助
  - 保健/教育(無償54億円、技協93億円) 計147億円
    - 保健人材センター整備
    - 初等教育施設整備支援
    - 職業訓練施設
- 世界基金 50億円
  - HIV/エイズ、結核、マラリア対策の事業継続に必要な治療薬等の購入



## 要望額(251億円)

- 無償資金協力・技術協力 計191億円
  - アフリカ支援(無償86億円、技協38億円) 計124億円
    - 道路等の広域インフラ、電力インフラ整備
    - 食料増産及び農業生産性向上等への支援
  - 保健/教育(無償34億円、技協33億円) 計67億円
    - 母子保健・感染症対策、診療所の整備等の保健システム強化支援
    - 初等教育施設、教員養成校の建設等のアクセス改善、質の向上に関する支援
- 世界基金 60億円
  - HIV/エイズ、結核、マラリア対策の事業継続に必要な実施体制の強化支援



## 【要望額と要求額の違い】

要求額742億円はアフリカ支援、保健/教育分野の支援に必要な経費およびエイズ・結核・マラリア対策の事業継続に必要な治療薬等の購入に充てる経費であるのに対し、要望額251億円は我が国の「対アフリカ支援倍増」の公約達成に追加的に必要な経費およびエイズ・結核・マラリア対策の事業継続に必要な実施体制の強化を支援するための経費。

ミレニアム開発目標(MDGs)の達成/人間の安全保障の推進(アフリカ支援、保健/教育)  
(無償資金協力・技術協力・世界基金)②

- 2015年のミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限を控え、MDGsの達成が最も遅れているアフリカ地域への支援、及び特に達成が遅れている保健・教育分野への支援を重点的に行うことが極めて重要。
- このため、TICADIVの対アフリカODA倍増の公約や本年9月に公表予定の新保健・教育政策での公約を着実に実現することが不可欠。

### 1. アフリカ支援

アフリカの成長加速化のための広域インフラ整備や農業生産性向上のための支援を行う。

### 2. 保健／教育

母子保健・感染症対策、診療所の整備等の保健システム強化の支援や、初等教育施設、職業訓練施設の整備支援を行う。

### 3. 世界エイズ・結核・マラリア対策基金

HIV／エイズ、結核、マラリア対策の事業継続に必要な実施体制の強化支援を行う。

# ミレニアム開発目標(MDGs)の達成/人間の安全保障の推進(アフリカ支援、保健/教育) (無償資金協力・技術協力・世界基金)③

## 対アフリカODA倍増

～2012年までに、日本のアフリカ向けODAを倍増～

### 2012年までに達成するODA倍増の内容

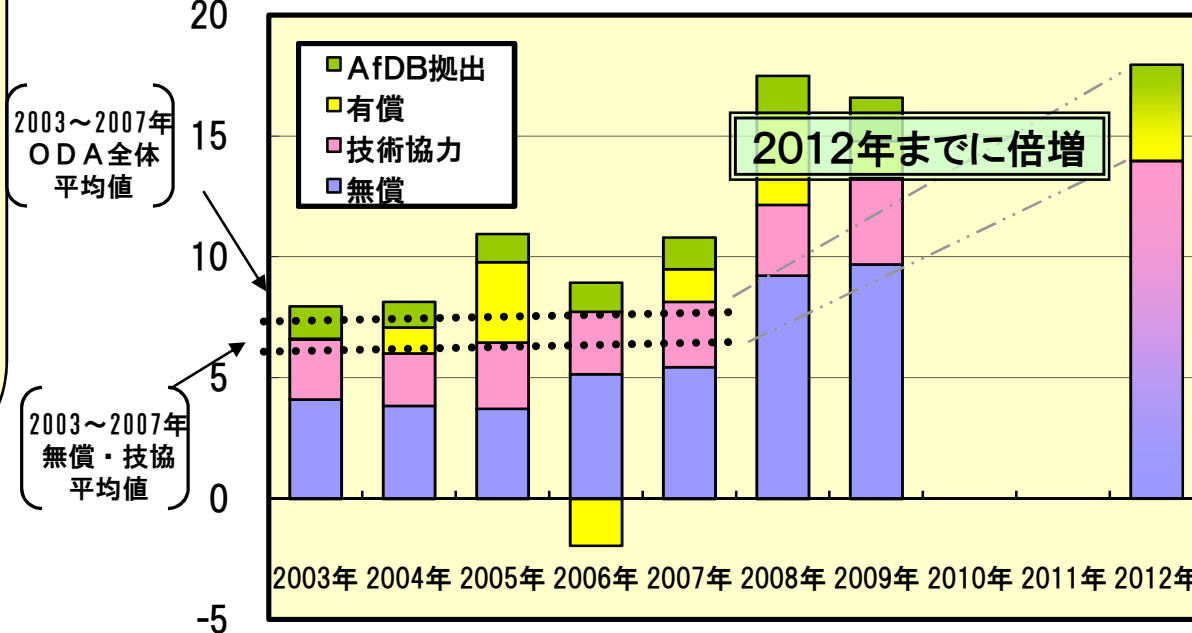
① TICAD IVまでの5年間(2003年～7年)の実績の平均値を基準とし、2012年までに日本の対アフリカ向けODAを9億ドルから18億ドルに倍増。この実績(基準値を含む)には無償・技術協力、円借款、アフリカ開発銀行等への拠出を含めるが、債務救済分は含まない。

② 無償・技術協力を2008年以降徐々に拡大し、7億ドルから14億ドルに倍増。

③ 5年間で対アフリカ向け円借款を更に積極的に供与し、2倍以上に増額(デリスパースペース)。その中で、債務持続性や資源、具体的な開発ニーズを踏まえつつ、供与国の拡大を進める。



(億ドル) 対アフリカ向けODA倍増



ミレニアム開発目標(MDGs)の達成/人間の安全保障の推進(アフリカ支援、保健/教育)  
(無償資金協力・技術協力・世界基金)④

TICADIVの対アフリカODA倍増の公約達成のために要望の事業の実施が必要。

成長の加速化を通じた貧困削減

【広域運輸インフラ】

●広域運輸インフラの整備は、アフリカの成長加速化に不可欠。我が国は、地域ごとにいくつかの回廊を選定し、道路、橋梁、港湾、空港、都市交通などの支援を行う方針。アフリカには、エチオピアとスーダンを結ぶエチオピアスーダン回廊やタンザニアとルワンダを結ぶ中央回廊など、国際物流を促進する回廊構想が存在。広域運輸インフラの整備に向け支援を実施。

【広域電力インフラ】

●電力は、生活・生産活動の基本インフラ。各地域に存在する電力網の事情に応じて、他のパートナーとも協調しつつ、効果的な広域電力インフラ支援を実施。

→要望額が認められることにより、多くのインフラ整備支援が実現可能。

農村支援

【食糧援助】

●人口増加や自然災害、紛争等により、アフリカの食料不足は依然深刻。食糧援助規約で我が国が支援すべき義務量の75%以上はアフリカ向け支援であり、引き続きアフリカ向け食糧援助を実施。

→要求枠により、我が国の義務の履行が可能。

【農業・農村開発】

●食料不足には、アフリカ自身の食料増産と農業生産性の向上が不可欠。農業技術の改善、種子・肥料等の活用促進、収穫後の処理、人材育成などを実施。

→要望額が認められることにより、アフリカ自身の食料安全保障に寄与。



ミレニアム開発目標(MDGs)の達成/人間の安全保障の推進(アフリカ支援、保健/教育)  
(無償資金協力・技術協力・世界基金)⑤

菅総理が9月22日にMDGs国連首脳会合において表明した保健/教育分野における新たな支援

●保健関連MDGsの達成に貢献するため、2011年～2015年の5年間で、関連の深い水・衛生分野の一部を含む保健分野において、50億ドルを支援。

⇒約29万人の子どもの命と2万人の妊産婦の命を救い、1万人のエイズによる死と3万人の結核による死及び9万人のマラリアによる死を防ぐ ※29万人にはマラリアによる死を予防する数も含まれる。

- ・G8ムスコカ・サミットで表明した母子保健分野における最大500億円規模、約5億ドル相当の追加的資金コミットメントを包含。
- ・GAVIアライアンスへの新規拠出(5年間43億円)やユニセフを通じたプログラム支援をパイロット的に実施する(5年間で追加的に30億円)など、効果の見えやすい支援を重視。
- ・世界エイズ・結核・マラリア対策基金については、我が国は当面最大8億ドル拠出を表明。

●教育関連MDGsの達成に貢献するため、2011年～2015年の5年間で、教育分野において、35億ドルを支援。

⇒延べ2,500万人(注:実質少なくとも700万人以上)の子どもに質の高い教育環境を提供する